

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1179

令和6年6月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ガクアジサイ：(大阪市内・大阪府)

トピックス：「新しい林業」に向けた下刈及び獣害対策の取組について
(森林整備課)

ニュース：島根森林管理署、鳥取森林管理署、岡山森林管理署、森林技術・
支援センター

花草木：ナガミヒナゲシ

我が署のスタッフ：兵庫森林管理署

森林事務所等紹介：岡山森林事務所 (岡山森林管理署)

国有林最前線：奈良森林管理事務所

「新しい林業」に向けた下刈及び獣害対策の取組について

【森林整備課】

林業は、苗木を植え付けてから木材として収穫するまでに大変長い期間が必要で、また、自然条件下での人力作業が多いという特徴があり、生産性及び安全性が低い現状にあります。このため、「森林・林業基本計画」では、従来の施業等を見直し、伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」に向けた取組を推進することとしています。

これらを踏まえ、近畿中国森林管理局においては、造林事業の低コスト化・省力化に向けた様々な取組を行っています。

今回はその中から、下刈の省力化・効率化及びシカ防護柵設置コストの低減等に向けた取組をご紹介します。

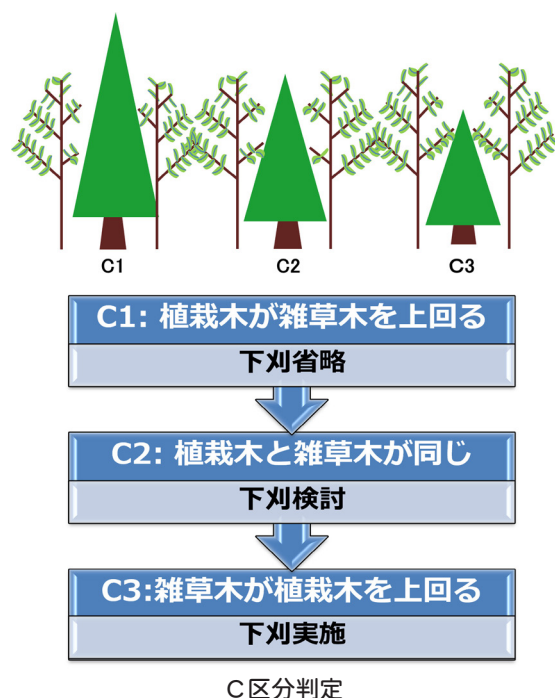
☆下刈の省力化・効率化の推進

下刈は、植付初期における植栽木の成長を促すために雑草木を刈り払う作業で、これまでは推奨期間とされる植栽後5年間、毎年、主に夏に作業が行われていました。

この下刈について、植栽木と雑草木の競合状態を見極め（C区分判定）、植栽木の成長が雑草木を上回っていれば作業を省略すること等により、経費や労力の削減に取り組んでいます。

これまでの取組の結果、省略化による植栽木への影響は確認されておらず、従来は5回行っていた下刈が、近年では2～3回にまで効率化し、ha当たり約50万円の経費を削減することができました。

また、下刈を夏季以外に行う「冬下刈」を積極的に取り入れ、熱中症リスクを軽減しつつ作業員の負担を減らすとともに蜂刺され等の被害の減少といった作業員の労働安全性の向上にもつながるよう取り組んでいます。



C区分判定の様子（C1）

☆シカ防護柵設置コストの低減

近年、シカ等の野生鳥獣による植栽木の食害が深刻になっています。その獣害対策の一つとしてシカ防護柵を設置していますが、多額の経費がかかることが課題になっています。そこで、当局では、安価なネットの使用や立木を支柱として利用することによる低コスト化に取り組んでいます。

一般的に、防護柵にはシカ等によるネットの噛み切りを防ぐためステンレス入りネットが使用されています。一方で、この安価なネットはステンレスが入っていませんが、網目の大きさが16mm程度であるためシカ等の口が入らず、噛み切り被害を防ぐことに効果を発揮しています。ステンレスがない分、安価で軽量になるため防護柵設置のための資材・作業コストの削減が可能となります。

また、現地で生育している立木を、ネットを張るための支柱として利用することにより、資材・作業コストを抑えられるだけでなく、積雪・倒木等に対する強度も確保できることから、その導入を進めています。

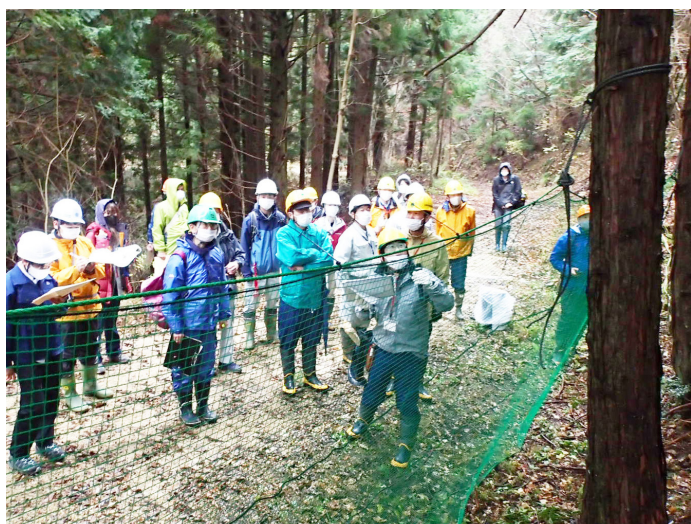


安価なネットと立木を利用したシカ防護柵

これらの取組の成果については、現地検討会を開催するなどして民有林への普及にも積極的に取り組んでいます。

令和5年度には「伐採と再生林の一貫作業システムによるコストの低減」と題して岡山県新見市において現地検討会を開催したほか「にちなん中国山地林業アカデミー」の学生に対する講義等も行いました。

近畿中国森林管理局では、引き続き「新しい林業」の展開に向けた新技術の試行・導入に取り組みながら、造林・保育の低コスト化・省力化等を推進し、民有林関係者への普及、定着に取り組んでまいります。



現地検討会の様子（岡山県新見市）



にちなん中国山地アカデミー学生への講義

第44回クリーン三瓶に参加しました。

【島根森林管理署】

5月19日（日）、島根県大田市にある三瓶山^{さんべさん}において、「第44回クリーン三瓶（クリーン三瓶実行委員会主催）」が実施され、島根森林管理署から大田森林事務所森林官が参加しました。



当日の三瓶山^{さんべさん}

当日は約270名の参加者がそれぞれのコースに分か



参加者は昨年を上回る270名が参加

れ、清掃活動を行いました。2時間ほどの作業では、三瓶山周辺の自然環境保全のため、ゴミ拾いとともに、近年増加しつつあるヘラオオバコやブタナ、セイタカアワダチソウなどの外来植物の除去も行いました。

この活動が美しい自然の維持につながることを願い、島根森林管理署としても引き続き参加していきたいと考えています。



沿道沿いの清掃活動の様子



サイハイラン※

※サイハイランは、ラン科の多年草植物です。細長く垂れ下がった花が特徴的で、一見ランの仲間には見えない姿をしています。実は絶滅危惧種にも指定されている希少な植物です。

ニッセイ緑の財団主催の育樹ボランティアイベントに参加しました。

【鳥取森林管理署】

5月25日（土）、鳥取県東伯郡三朝町に所在する三徳谷^{みとくだに}国有林において「ニッセイ緑の財団」主催の育樹ボランティアイベントが開催され、鳥取森林管理署から



開催挨拶をする宇藤次長

次長ほか4名の職員が参加しました。

みとくだに三徳谷国有林には「ニッセイ三朝の森」が設定

されており、健全な森を育てようと同財団が定期的にボランティアイベントを実施しています。当日は参加者総勢53名が参加しました。



苗木の植え付け作業

また、朝から晴天に恵まれ、絶好のイベント日和となり、参加者全員で次世代の森づくりのスタートとなる苗木（スギ）の植付や、苗木の高さよりも高くなった雑草を刈り取る下刈りを実施しました。



下刈り作業

鳥取森林管理署では、今後も森林の大切さを伝えるため、このようなイベントに参加していきたいと考えています。

参加者の皆様、大変お疲れ様でした。



集合写真

「第74回全国植樹祭 岡山2024」「第52回全国林業後継者大会」が開催されました。

【岡山森林管理署、森林技術・支援センター】

5月26日（日）、ジップアリーナ岡山（岡山県岡山市）において「第74回全国植樹祭 岡山2024」が開催され、全国から招待者等約3,000人が参加しました。式典会場に隣接する「ECO & MOK ハレひろば」には、環境・森林・林業・木材関連展示PR会場が設けられ、36団体が展示や販売等を行いました。

岡山森林管理署は森林技術・支援センターと共同で、業務紹介や森林環境税、ウッド・チェンジ等のパネル展示、関連パンフレットの配布、近畿中国森林管理局の動画ワーキングチームが作成した管内国有林の紹介動画の放映を行いました。



展示ブース



青山林野庁長官挨拶（全国林業後継者大会）

また、関連行事として植樹祭前日の5月25日（土）、「第52回全国林業後継者大会」が津山文化センター（岡山県津山市）で開催され、林業関係者など約300人が参加しました。

大会では岡山県内の4団体から活動発表があり、ようごうやま用郷山国有林内に樹木採取権を設定している株式会社戸川木材からも活動報告がありました。

今回、全国植樹祭や全国林業後継者大会に参加するという貴重な機会を得たことは、職員にもよい経験となりました。

岡山森林管理署では今後も、様々な機会を捉えて国有林や署の取組み等について情報発信を行ってまいります。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○6月10日（月）～7月2日（火）の展示は、福井県池田町、兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター、近畿地方環境事務所です。

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○「水都おおさか森林（もり）の市2024」開催決定！

<開催日> 令和6年10月27日（日）10:00～15:30

★出展者募集します★

<テーマ>：「森林（もり）のワクワク探しに行こう！」

<募集期間>：令和6年6月28日（金）まで（必着）

詳しくは下記の局ホームページをご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/morinoichi/index.html>



花草木

【ナガミヒナゲシ】

ナガミヒナゲシは、ケシ科の一年草です。日本の在来種ではなく、外国から渡来して日本で野生化した外来種です。原産はアメリカ、北アフリカ、ヨーロッパと言われています。オレンジ色よりも優しい、サーモンカラーの花を咲かせます。ケシ科の花らしく、アイスランドポピーをコンパクトにしたような姿をしています。



大阪市内の道端で見つけたナガミヒナゲシの花と実

花の咲く時機は4月～5月、春も深まり暖かくなつた頃に開花します。草丈20～60cm程度、すっと伸びた花茎の先に直径3cm程度の花を咲かせます。花が終ると小さなケシ科特有の形の実をつけます。実は2cm程度の細長いもので、一房あたり1000～2000個ほどのとても小さな種が含まれています。なお、ナガミヒナゲシは栽培が禁止されているケシではありません。

ナガミヒナゲシの花言葉は、「平静」「慰め」「癒やし」です。

我が署のスタッフ 兵庫森林管理署

永田 晴規 (ながた はるき) (R6年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの森林育成と経営担当として、造林事業の発注や産物調査復命書の審査など幅広い業務を行っています。現地業務では、官行造林地で収穫調査を行いました。

事務系採用で入庁し、森林・林業に関する知識や技術がまだまだ不十分であると感じているため、上司から指導を仰ぐことに加え、業務を問わず積極的に現場に出て技術を習得することに努めています。

【職場の雰囲気は？】

分からないことがあれば周りの方々が丁寧に教えてくれるため、何でも質問しやすい雰囲気です。また、新しいことに挑戦したいとき、周りの方々が全力で後押ししてくれます。施業方針等を真剣に議論する場面もあれば、時には何気ない会話が飛び交うメリハリのある職場です。

【林野庁の魅力は？】

国家公務員として事務的な職務を遂行するだけでなく、実際に山へ入り、自らの目で森林を調査できる点は林野庁の業務の魅力です。また、苗木が何十年もの歳月を経て立木になるまでのプロセスの一旦を担うことができることも大きな魅力です。

行政区分で入庁しても、充実した研修制度やOJTを通じて成長できる環境が整備されているため、林業分野に足を踏み入れたことのない方も安心して働くことができると思います。



事務室内で執務中

森林事務所等紹介

岡山森林事務所（岡山森林管理署）

地域統括森林官 鎌田 慎治（かまだ しんじ）

岡山森林事務所は岡山県岡山市に所在し、管轄区域は岡山市・倉敷市・笠岡市・浅口市・玉野市・井原市・備前市・瀬戸内市・赤磐市・矢掛町・里庄町・早島町・和気町の9市4町で国有林29団地4,661ha、官行造林8団地453haを管理しています。

管内は特色ある国有林が多く、アラカシの生育に必要な森林を保護・管理し、遺伝資源の保護、学術の研究等に資することを目的に設定している「^{たつのくちやま}竜ノ口山アラカシ希少固体群保護林（16.47ha）」や岡山空港に隣接した丘陵地で、ゴルフ場、リゾート温泉施設等が整備されている「^{ふじがなる}藤ヶ鳴野外スポーツ地域（132.51ha）」、日本三名園のひとつである「後樂園」の借景をなし、数多くの古墳等が存在する「^{みさおやま}操山自然休養林（125.55ha）」などがあります。

また、瀬戸内海に浮かぶ^{かくいじま}鹿久居島や^{むくちじま}六口島にも国有林が所在していますが、六口島は島と本土を結ぶ橋梁がないことから、年2回、渡船をチャーターし、島に渡って貸付地の確認や森林パトロールを実施しています。



竜ノ口山アラカシ希少固体群保護林（岡山市）



^{ふじがなる}藤ヶ鳴野外スポーツ地域（岡山市）



^{むくちじま}六口島の象岩（国の天然記念物）（倉敷市）



操山自然休養林（岡山城天守閣から遠望）（岡山市）

一方、近年、操山自然休養林内でカシノナガキイムシの被害が増加していることから、伐倒駆除事業を行い、被害のまん延防止と入込者の安全確保に努めています。

岡山県内は後樂園等、四季を通じて楽しめる観光名所が沢山ありますので、観光される際には、自然休養林等の散策もあわせてご検討いただければ幸いです。

シリーズ『国有林 最前線！』

『民有林直轄治山事業におけるICT技術の活用について』

奈良森林管理事務所

近年、森林土木工事において、受発注者の働き方改革や生産性の向上を目的としてICT技術を活用した取組を積極的に推進しており、その中でも比較的容易な取組技術として遠隔臨場に取り組んでいます。

一方、森林土木工事を行っている箇所現場は山間奥地にあり、通信不感地帯（携帯電話圏外）のため遠隔臨場の導入が困難となっていてところも多くあります。奈良森林管理事務所では、通信不感地帯において低軌道衛星（Starlink）を活用した遠隔臨場の取組を実施したので紹介させていただきます。

低軌道衛星を利用するためには、地上アンテナを設置し、屋外用ルーターを併用することで誰でも簡単に通信環境を構築することができます。ただし、①北側上空が見開けた場所、②電波法に適合した屋外用ルーター等の設置が必要になります。

今回の施工地では、屋外用ルーターと施工場所が離れていたため、NTT アドバンステクノロジー株式会社にご協力頂き、簡易で自由にWi-Fiエリアを展開できる屋外用のWi-Fi機器を用いて実施しました。

これにより安定した通信環境の確保が可能となり、遠隔臨場の実施がスムーズに行えるようになりました。任命した監督職員が駐在している十津川治山事業所から片道約1時間の移動を伴う現場でしたが、遠隔臨場の導入により、監督職員は事業所の執務室内で段階確認や材料検査などを実施することができ、移動時間が削減されるとともに、受注者側の現場作業を滞らせることなく進めることができました。更にWi-Fiの中継ルーターを増設することで電波の死角となるエリアも補完することができたため、全ての作業スペースで良好な電波状態を確保することが可能となり、ノーストレスで遠隔臨場を実施することができました。

また、遠隔臨場に限らず、緊急時の連絡手段としても活用できることから、受注者の安全対策としても非常に有効であることが確認されました。

今後はさらなるICT機器の活用、また林業部門への活用なども検討できるため、取り組みを進めたいと考えています。

